ゴールデンウィーク特別集中セミナー 「体育会系イスラーム史家養成講座 (中世後期編)」

早稲田大学イスラーム地域研究機構は、早稲田大学文学部・文学研究科」「中東・イスラーム研究コース」、東京大学東洋文化研究所、東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門(U-PARL)との共催で、上掲の集中セミナーを開催した。

日程は、5月3日から5月7日の5日間であったが、2部制として、全日程参加するか、いずれかの部にのみ参加するかは、参加希望者が各々の関心に従って選択するという方式をとった。

第1部は、ウォレン・シュルツ氏(デ・ポール大学)による「Mamluk Numismatics: An Intensive Seminar(マムルーク朝貨幣学集中セミナー)」、第2部は、ジョン・ウッズ氏(シカゴ大学)による「Historians and Technology: The Introduction of Firearms in Iran and Central Asia—Prehistory of the Gunpowder Empires(歴史学者と技術:イランと中央アジアにおける火器の導入——Gunpowder Empires 以前の歴史)」であり、下記のプログラムに沿って行われた。

【プログラム】

第1部

第2部

5月3日(水) 10:00-17:30 早稲田大学33号館第10会議室 5月4日(木) 10:00-17:30

早稲田大学33号館第10会議室 5月5日(金)10:00-13:00 東京大学東洋文化研究所302会議室

5月5日(金)14:00-18:00

東京大学東洋文化研究所 302 会議室 5月6日(土) 10:00-18:00 東京大学東洋文化研究所 302 会議室 5月7日(日) 10:00-18:00 東京大学東洋文化研究所 302 会議室

使用言語:英語

《第1部》

Mamluk Numismatics: An Intensive Seminar

Instructor: Warren Schultz

This seminar in Mamluk numismatics will provide the fundamentals of numismatic research, an introduction to the wider field of Islamic numismatics, and a knowledge base of the breadth of Mamluk coinage that will enable future research in this field with confidence. This monetary evidence is a rich source for economic, political, and social history, and the seminar will provide an opportunity for handson work with many Mamluk coins. A bibliography will be provided, and daily readings will be assigned. After completion, participants will be familiar with the historiography of the field, be able to identify the various phases of Mamluk coinage, as well as recognize the many different variables that define the more than 1000 known types of Mamluk coins. The seminar is intended for advanced graduate students, recent post-doctorates, and other qualified participants. Knowledge of Arabic is required, as is an awareness of the span of Islamic history, but no previous numismatic experience is required.

Day 1: May 3

Session 1: Introduction; Numismatic Fundamentals

Session 2: Minting; Islamic Numismatics

Session 3: Mamluk Numismatics: Mamluk Gold

Presentation: Ohtsuya, Kaori, "Travel Patterns of the Meccan Scholars from the Latter Half of the 13th Century to the End of the 14th Century"

Day 2: May 4

Session 4: Mamluk Silver

Session 5: Hoards; Metrology

Session 6: Mamluk Copper

Presentation: Kwang, Sung Il, "Politics of Memory: Nationalizing the Mamluk Past in the Egyptian School Textbooks During the Nasser's Years"

Day 3: May 5

Session 7: Discussion; Conclusion

Presentations: Kubo, Ryosuke, "Management of Waqf Facilities: with Reference to the Mamlūk Cairo's case," and Fukumitsu, Kanae, "Fatimid Caliph Court in Ifriqiya"

《第2部》

Historians and Technology: The Introduction of Firearms in Iran and Central Asia—Prehistory of the Gunpowder Empires

Instructor: John Woods

This seminar will focus on issues of military and technological history as presented in Arabic, Persian, and Turkish sources down to the beginning of the 16th century after which the use of firearms by the Ottomans, Safavids, and Mughals is well-attested. We will examine the scholarly literature on the types of weaponry used in Islamic lands from the 11th through the 15th century. The Encyclopaedia of Islam articles "Barud" and "Hisn" will be scrutinized along with the monographs of David Ayalon and J. R. Partington. Issues of comparative history and technological diffusion will be addressed through reading and assessing such works as Joseph Needham's Science and Civilization in China. Selected Arabic, Persian, and Turkish narrative and encyclopedic sources will be excerpted, considered, and analyzed. (A

bibliography and selections will be provided.) Finally, visual evidence will also be utilized to attempt to come to some conclusions about the nature of military technology in the period under consideration.

Day 1: May 5

General Introduction to the Subject of the Seminar, Sources and Resources, Approaches and Methodology, etc.

Day 2: May 6

Presentations: Iwamoto, Keiko, "Soldiers Replaced by the Firearms?: Study on the Auxiliary Groups in the Early-modern Ottoman Empire," and Mizukami, Ryo, "The Intentional "Confessional Ambiguity" by Iraqi Shi'i Ulama?: A Writing Strategy on Twelver Imam's Faḍā'il from the 12th to 14th Century"

Session 1, 2, 3

Day 3: May 7

Presentations: Sugiyama, Masaki, "Nurbakhshi Sufi Network at Herat in the End of the Timurid Period" Session 4, 5, 6

参加者数は、第1部が17名(うち研究者9名、 院生8名)、第2部が13名(うち研究者7名、院生6 名)であり、このうち韓国からの参加者が1名、九 州方面から2名、関西方面から3名、東北方面から1名であった。本セミナーは、日本におけるイスラーム地域史研究の飛躍と若手研究者の育成、 国内外の研究者との学術交流を目標に掲げて企画されたが、その目標にかなう形で参加者が集まった結果となった。

各部は、講師による講義と、参加者有志による研究報告から構成された。研究報告の部は、第1部では、大津谷馨氏(京都大学・院)、II-Kwang, Sung氏(Center for ME Studies, Konkuk Unviersity研究員)、福光叶恵氏(早稲田大学・院)、久保亮介氏(一橋大学・院)、第2部では、岩本佳子氏(東京外国語大学・日本学術振興会特別研究員PD)、水上遼氏(東京大学・院)、杉山雅樹氏(京都外国語大学・研究員)が英語で報告を行い、続く質疑応答では活発な議論がなされた。

第1部の貨幣学セミナーは、マムルーク朝 (1250-



第1部 シュルツ氏による解説の様子



第1部 一枚の貨幣からどのような情報が得られるか議論 する参加者たち

1517) 治下のシリアとエジプトにおいて発行された 貨幣から当時の社会経済を再構成することを目指 すものであった。各セッションの最初にトピック についての解説がなされ、その後、シュルツ氏の 個人コレクションの貨幣が参加者一人一人に配ら れた。参加者は手元の貨幣を素手で触ることが許 され、そこからどのような情報が得られるか参考 文献を参照しながら検討し、結果と疑問点などに ついて議論するというスタイルで進められた。参 加者は、普段ガラスケース越しに見ることはでき ても触る機会にはほとんど恵まれない実物の貨幣 に触れるという貴重な体験をしたのはもちろんの こと、残されたモノからどのように歴史を構成し ていくかという課題について挑戦した。

第2部の火器セミナーは、「ティムールは火器 を使用したのか?」というシンプルながらも示唆 的な問題を文献史料に基づいて検証することを目

標とするものであった。参加者には、事前に配布 された膨大な量の課題の読み込みとそれらの情報 に基づく議論が求められ、まさにタフさが要求さ れたが、「ウッズ流」の授業を受ける貴重な機会 に恵まれ、心身ともに鍛えられたという実感が得 られるものであった。ウッズ氏の研究方法は、本 人の言うように「昔ながらのスタイル」ではある が、様々な言語、時代、著者によってかかれた史 料の特徴を踏まえて、そこから得られる情報を突 き合わせ、矛盾と整合性を整理していく方法は、 歴史学において何度でも立ち返る必要のある重要 なことであることを再確認させられた。また、文 献史学の可能性についても再発見することができ た得がたい機会となった。

今回、日本学術振興会外国人研究者招へい事業 (平成29年度・短期・第1回、採択番号:S17006、 受入研究者:大稔哲也、および同、採択番号:



第2部 ウッズ氏による講義の様子



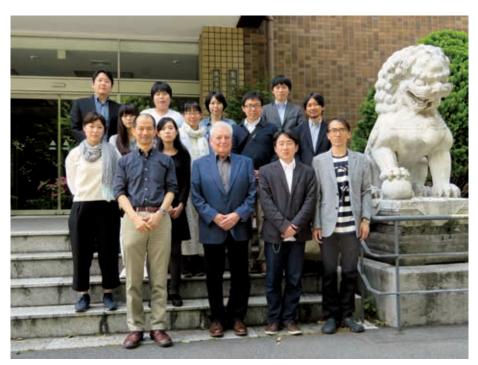
グループに分かれて課題をこなす参加者たち 第2部

S17002、受入研究者:森本一夫)の助成によって、 のべ30名の参加者が知識を深める機会を得るこ とができた。そして、セミナー開催にあたって、 ご尽力くださった大稔哲也氏(早稲田大学)と森 本一夫氏(東京大学)の両氏に心より感謝申し上げる。

熊倉和歌子 早稲田大学イスラーム地域研究機構 研究助手



第1部 シュルツ氏を囲んで



第2部 ウッズ氏を囲んで